

## 6年制課程を巣立った諸君へ ―生涯学習の勧め―

内山 充

薬剤師の教育制度改革は、国民の健康志向や医療環境の変化に伴う社会的要請によって実現した。それゆえに新たに登場した6年制卒業の薬剤師に対して、いろいろな意味で期待や激励の言葉が投げかけられている。そして、この教育制度改革をわが国の人と社会にとって価値あるものにする責任は、新卒業生をはじめそれを受け入れる全薬剤師にあり、人々の期待に応えて実績を示して行くことが大切であることは言うまでもない。

### 進歩と変化は待ってくれない

医学も薬学も、他の科学技術と共に急激に進歩している。一方、疾病構造の変化とともに患者意識の高まりもあり、患者主体の医療への変化が明らかである。時代の変化は目まぐるしい。昨日の知識で今日も薬剤師としての仕事ができるとは限らない。『昨日卒業して、今日学ぶことを止めれば、あすは無学!』ともいわれる。既卒の先輩薬剤師は、それら必要な知識と能力を、生涯学習により自ら学び取る努力を継続しつつある。したがって、今や教育年限の区別なく、薬剤師には生涯に亘る継続的な学習が必須の状況になっている。

### 免許取得は権利と同時に義務を負っていること

諸君は、免許取得により、薬剤師にしか出来ない職務上の権利を与えられた。しかし、そこには薬剤師として相応しい仕事をする義務が付随していることを忘れてはならない。相応しい仕事をしているかどうかは、自分ではなく世の中の人判断するのである。薬剤師としてこれでよいか、何か学ぶことはないかについて、先輩に聞くなどして貪欲に生涯学習に励むことにより、時代に即応した、薬剤師に相応しい正しい判断の出来る能力を身につけることが出来よう。

### 新しい社会的価値を創る意欲を

薬剤師の実務には、調剤(広義)と疑義照会と情報提供という基盤業務がある。医療現場での基盤業務のすべてを大学教育に求めるのは不可能であるので、諸君は卒後の学習でまず基盤業務を身に付けて欲しい。先輩薬剤師は現在、この薬剤師基盤業務を超える新しい価値の創造に務めている。すなわちチーム医療への参画と貢献、在宅療養での信頼と実績獲得、セルフ及びプライマリ・ケアでの責任ある行動と役割など、薬剤師職能を患者のために最大限に生かすことの出来る新しい価値開拓に意欲的に挑戦している。

諸君も基盤業務の習得後は、新しい知識と感覚をもって先輩薬剤師に協力し、薬剤師実務の新しい社会的価値の実績作りに努めていただきたい。これらの経験と実績は、すべて生涯学習とその実践の積み重ねから生み出される。

### 選ばれたものだけが生き残る

激しい進歩と変化の中で患者本位の医療が進むにつれて、いずれ患者が薬剤師の能力と適性、それに心根(思いやり)に対する値踏みをして、薬剤師を選ぶ時代が来るに違いない。その時代に生き残るためには、継続した学習によって自らの職能と感覚を常にリフレッシュしておく必要がある。知識社会では、「働くことは学ぶこと」である。生涯学習は、仕事の合間に付加的に行うものではなく仕事そのものだといえる。

時代の変化は些細なことが原因で一気に起こる。起きてからの対策では間に合わない。結局変化に鈍感な集団は取り残されるしかない。6年制教育を受けた諸君は、生涯学習への積極的な参加によって、薬剤師の将来を敏感に捉え、選ばれる薬剤師像を確立して欲しい。

(2012. 5. 17)